

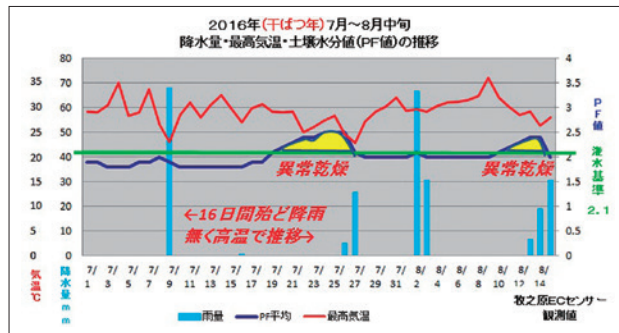


茶

三番茶芽生育期の
水管理は翌年の
一番茶に影響大!



農業経営支援課
山本 尚充



今年の一番茶は早場所を中心に増産傾向でしたが、昨年は記録的な減収でした。減収の要因のひとつとして考えられているのが、前年三番茶芽生育期の干ばつです。

多発し、結果的に一番茶の芽数の減少と減収を招きます。これから特に心配される気象災害は、水不足と高温障害です。これらに対する直接的な対策は、やはりかん水となります。かん水の必要性は、pF値で判断します。正常pF値1.5程度。このpF値が2.1以上になると「かん水が必要」と判断されます。詳しくは、JAおおいがわのホームページで確認できます。また、炎天下に、樹冠面の葉に触れて熱いと感じたらかん水のサインです。日中暑くても、水分を保持していれば、葉の温度は冷たく感じます。この時期の水管理は重要と捉え、積極的にかん水しましょう。

三番茶芽生育期の干ばつは、年内の萌芽が

《病害虫》

三番茶芽は、来年の一番茶をつくる重要な母枝となります。来年の一番茶への管理は、すでに始まっています。各地区の防除暦に基づき適期防除をしましょう。防除は、暑い時間帯を避け、涼しい時間帯(葉焼け防止・熱中症対策)の朝・夕に実施するようにしましょう。

- ① 8月中旬～下旬 チャハマキ・コカクモンハマキ
- ② 8月下旬～9月上旬 ヨモギエダシヤク
- ③ 秋芽生育期 チャノミドリヒメヨコバイ・チャノキイロアザミウマ

《土壌肥料》

二番茶を摘採すると、根の生育と養分の吸収が活発になり、三番茶の準備を始めます。この時期の茶樹中の養分は、一番茶、二番茶に利用され減っているため、スムーズな養分吸収が必要です。施肥設計に基づいて施肥を実施しましょう。

《JAおおいがわHP》

トップメニュー→営農→JA大井川環境保
全情報→圃場選択→気象データの表示
過去1か月の数値が確認できます。